

政翔会

市民と市政の**翔け橋**

Seisyokai 新春号

政翔会 近江八幡市桜宮町 236 番地 発行：2020 年 1 月
事務局 議会内 TEL 36-5528 発行責任者：辻 正隆



辻 正隆
Masataka Tsuji

所属委員会等

監査委員

議会運営委員会委員

総務常任委員会委員

小川 広司
Hiroshi Ogawa

所属委員会等 予算常任委員会委員長

産業建設常任委員会委員

市庁舎整備等特別委員会委員

議会改革推進委員会委員



沖 茂樹
Shigeki Oki

所属委員会等

教育厚生常任委員会副委員長

議会改革推進委員会委員

広報広聴委員会委員



「市民のみなさまへ」ごあいさつ

明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。我が政翔会は、昨年 4 月統一地方選挙により市民の皆様方より信託を賜り、二元代表制のもと、政策提言ができ、是々非々の立場で意見の言える同志が会派を立ち上げました。令和の幕開けとともに、我が国の長い歴史に思いを致しながら、これからは戦争のない平和の時代が続き、市民の暮らしが豊かで幸福なものとなりますよう決意を新たにしているところであります。

さて、我が国は、平成の 30 年間で大きな構造変化に直面しています。人口減少・少子高齢化の進行はもろろんのこと、個人の働き方やライフスタイル、企業経営のあり方など様々な側面で多様化が進んでいます。特に今後、日本の総人口が減少し続けていく中で、半世紀後には生産年齢人口が約 5 割にまで低下すると見込まれており、こうした変化は、生産年齢世代を主たる支え手として設計されてきた社会保障制度にも影響を与えると考えられます。また、昨年は全国各地で地震・集中豪雨・記録的な暴風などにより、自然災害が相次ぎました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、我が政翔会はこれらの教訓をしっかりと踏まえながら、防災・減災・国土強靱化対策を着実に実行し、災害に強い安全・安心なふるさとづくり、市民福祉の充実・安定化と行財政改革を進めてまいります。皆様には、これからも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

政翔会 小川 広司

昨年は大変お世話になりました。9 年ぶりの議会、住民の暮らしに直結する課題を中心に取り組んできました。今年も頑張ります。よろしくお願いいたします。

合併処理浄化槽更新時の国の交付金、県の補助金が止められたことは各家庭に大きな負担を負わせるものです。

いま市民の約 23% が浄化槽によって汚水処理されており、この比率は県内でも突出したものとなっています。議会では県、国へ補助金復活のための積極的な働きかけなど求めてきました。(令和元年 12 月 議会 国へ意見書提出 可決)

日野川改修事業の促進を求めて国、県へ要望活動

竜王町日野川改修促進協議会と馬淵学区日野川改修推進協議会の活動に同行する等出来ることは何でもとの思いです。(令和元年 12 月 国へ要望書提出)



政翔会 沖 茂樹

昨年は皆様の大きなお力のおかげで、市政の場で働く機会を与えていただきました。心より感謝を申し上げます。

まだまだ効果的な質問とはまいりませんが、市民の皆さまと語り合う中で感じた疑問を行政当局に確認させていただきました。

・市役所庁舎建設について

・本市の農業施策について

・交通弱者の日常移動手段の確保について

・住民票のコンビニ交付について

・障がい者支援について(令和元年 12 月議会 精神障がい者支援について請願を求める意見書提出 可決)

など、昨年は 9 項目の質問を行いました。また、4 年間の目標としてかけました、「高齢者、子ども、障がい者、そして、その家族を地域で支える仕組を創ることで強い地域を育てる。」ための取組についても着実に進めてまいりますのでご支援をお願い申し上げます。



政翔会 辻 正隆

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。旧年中は大変お世話になりました。先ずは、この一年が皆さまにとりまして、健康に恵まれたよき年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

皆さまのおかげで、2 期目の議席をいただくことができました。改めまして、2 期目も全力で取り組むことをここにお誓い申し上げます。私の 2 期目の任期は、次の時代への橋渡しとなる重要な時期と重なります。庁舎建設契約の解除による市政・議会の混乱！私は市政の後退につながる反対のための反対の意見ではなく、建設的な意見による議論の構築が必要であると考えます。状況を常に冷静に捉え、市民の皆さんに納得して頂ける時代に即した新庁舎建設に導くのが、この任期中であります。市域に目を転じますと、人口減少・少子高齢化の地域間格差、脆弱な市内道路網、基幹産業であります農業の活性化、観光の振興や、人知を超えた自然災害に対する防災対策など課題は枚挙にいとまがありません。

言うまでもなく、政治家の存在意義の一つは地域貢献であり、市民の皆さまに目に見えるかたちで成果を挙げるのが責務であると認識しております。

私も平成 27 年に初当選させていただいてから早や 6 年目を迎えます。引き続き、謙虚に丁寧に政策実現に尽力することをお誓い申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



視察研修報告

会派の3人全員参加で令和元年10月に国の関係省庁と埼玉県桶川市へ行きました。

国の関係省庁では

- ◆児童虐待相談件数の急増、痛ましい事故の発生などから児童虐待防止対策の抜本的強化がされてきていること
- ◆「まち・ひと・しごと」という中で地方への新しい人の流れの創出をどうするかなど。東京一極集中からの転換。
- ◆青少年の「社会を生き抜く力」を育むための体験活動の推進取組。
- ◆次世代の交通自動運転システムの現状。
- ◆地方鉄道の状況と存続事例。現在近江鉄道の存続が問われています。

等研修してきました。その内容は検討し、市政の中に反映していきます。

桶川市で平成30年完成の新庁舎を視察

埼玉県桶川市

人口 75,385人
新庁舎延べ床面積 9543.18㎡
建設工事費 36億6284万円

近江八幡市

人口 82,116人
新庁舎の計画面積 概ね9000㎡
(人口は令和元年6月1日現在)

桶川市では「時代に合った必要事項の確保と将来をそれなりに想定した考え方が建設には必要ではないか」との考えのもと事業を進められたとのお話は、本市においても大事なポイントではないかと考えます。



国の関係省庁と埼玉県桶川市へ視察研修

「平成30年度決算状況について」

平成30年度の一般会計の収支状況は、歳入総額が36,577,007千円で、歳出総額35,635,125千円で、形式収支は941,882千円の黒字で、実質収支は、繰り越し財源392,044千円を控除した549,838千円の黒字となりました。

平成30年度の特別会計収支状況は、形式収支、実質収支ともに275,437千円の黒字となり、単年度収支では215,194千円の減額となっています。ただし、この黒字は一般会計繰り出し金によるものであります。

平成30年度決算は黒字となっていますが、令和元年10月から、教育・子育て・社会保障の充実のための消費税導入がされることから、財政運営における影響も懸念されます。

今後は、市庁舎整備をはじめ既存施設の更新需要、社会保障制度の充実による扶助費の増大など依然として財政状況は厳しい中で、良質な公共サービスが提供できるよう私たち政翔会は、引き続き行財政改革や財源確保の取り組みによる持続可能な財政基盤の確立を図っていきます。

「公営企業会計」

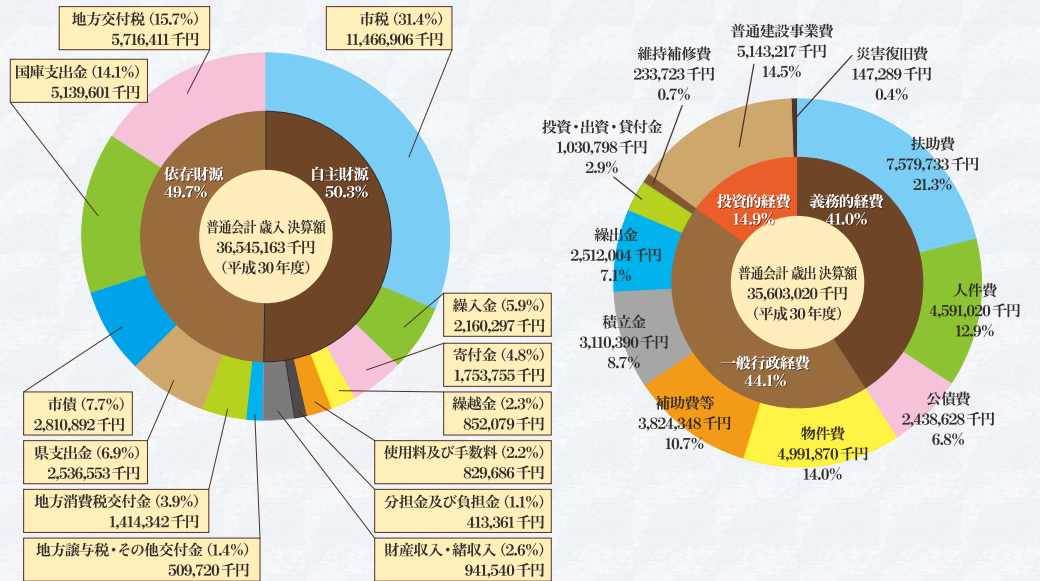
・上下水道会計

上下水道事業会計において営業収入は、営業収益が1,485,824千円、営業費用が1,435,031千円で、差引営業損益は50,793千円の利益、当年度純利益は、149,390千円となりました。また、下水道事業会計においては、純利益は40,037千円となりましたが、これは一般会計からの多額の繰入金によるものであります。

公営企業として安定的に事業を継続していくためにも、将来における収支を見込んだ経営分析を行い抜本的な改正の必要があります。

・病院事業会計

収支差引326,451千円の当年度純利益となりました。当年度は、年間を通して高い病床稼働率を維持されたことや、患者数の増加により医療収益が大幅に伸びるとともに、コスト削減を推進された結果の黒字と評価しております。自治体病院を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にありますが、病院経営の安定は市民の安心と安全につながるとの認識のもとしっかりと注視していきます。



普通会計歳入決算額の構成図

普通会計歳出(性質別)決算額の構成図

新庁舎建設について

市役所庁舎の建設は、今どうなっているのか？いつ完成するのか？どこに建てるのか？いくらお金がかかるのか？私たち政翔会は、議会の中だけでなく様々な機会をつうじて、市民の皆さまのそんな疑問を市当局に問いかけています。

これまでの経過と今後の予定

年度	月	事業内容
平成30年度 (2018年)	4月	建設工事請負契約の解除
	10月	損害賠償に関する協議の開始
平成31年度 / 令和元年度 (2019年)	7月	庁舎整備基本計画策定委員会を設ける(※1) 第1回委員会開催(7月)～第4回委員会開催(12月)
	1月	市民説明会 庁舎整備に関するパブリックコメント(意見公募手続)の実施
	3月	第5回委員会開催 庁舎整備基本計画の策定
令和2年度 (2020年)		基本設計(※2)および実施設計(※3)
令和3年度 (2021年)		
令和4年度 (2022年)		建設工事
令和5年度 (2023年)		完成

※1 平成23年度以降に策定された計画や議論などを継承しつつ、これからの時代の近江八幡市に相応しい庁舎の整備に向けての基本計画を策定することを目的とする委員会、学識経験者、市民団体代表、公募による委員などで構成されています。

※2 建物のイメージ、大まかな外観や間取りなどの図面作成と概算工事費の積算です。

※3 実際に建設工事を行うための詳細な図面作成と工事費の積算です。

新庁舎建設にかかる工事費の概算

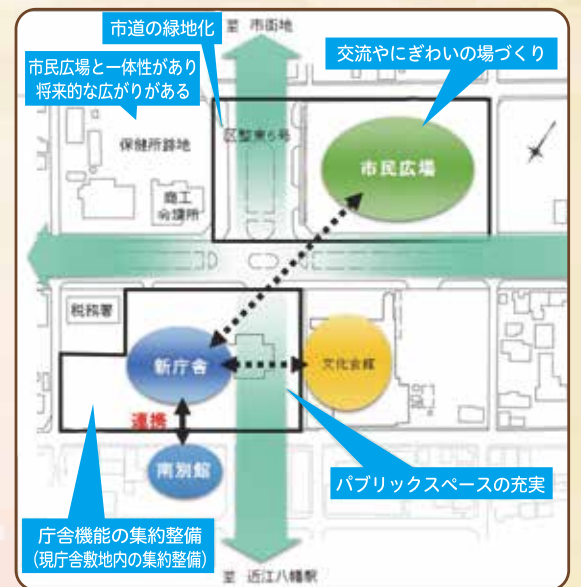
現市役所庁舎敷地内に建設し、完成後に現庁舎を解体する場合

工事費 41億8000万円～46億3000万円

建設費 約40億5000万円～45億円

※この数字は近年に新庁舎の建設を行った他市の事例から1㎡の単価を45万円～50万円と想定し、庁舎の規模を9000㎡として算定したものです。

現庁舎解体費 約1億3000万円



(1月16日に開催された市民説明会資料より)

編集後記

2020年の干支「庚子」は、非常に冷静なひらめきとクレーバーな行動で転身し、新しく始めることがとてもうまくいくことを意味しているそうです。私たち政翔会は、市民の皆様方に寄り添い、新たな芽吹きに向かい引き続き全力で活動してまいります。